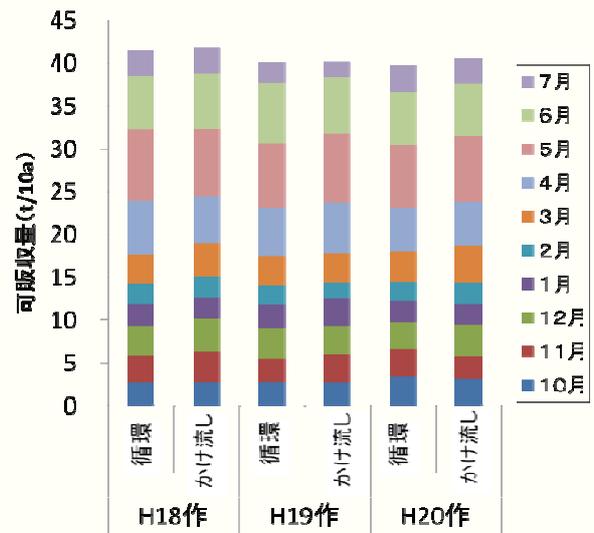
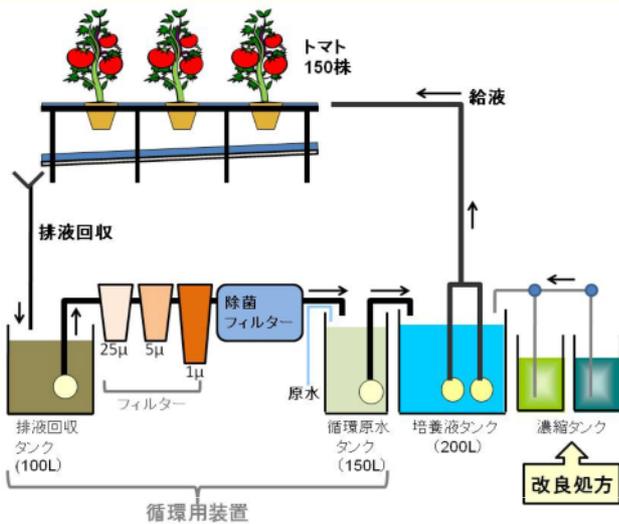


独立ポット耕において培養液循環栽培に適する培養液処方を開発しました

トマトの独立ポット耕は、土壌病害の拡散を防止でき、高収量が可能な少量培地耕です。しかし、培養液かけ流し方式であるため、培養液の循環方式による環境への負荷軽減、肥料代の削減が望まれています。かけ流し栽培で使用する培養液処方で循環方式にすると、CaやMgが徐々に蓄積し、収量が減少します。そこで、培養液循環栽培において、かけ流し栽培と同程度の収量及び果実品質を得ることができる培養液処方(以下、改良処方)を開発しました。



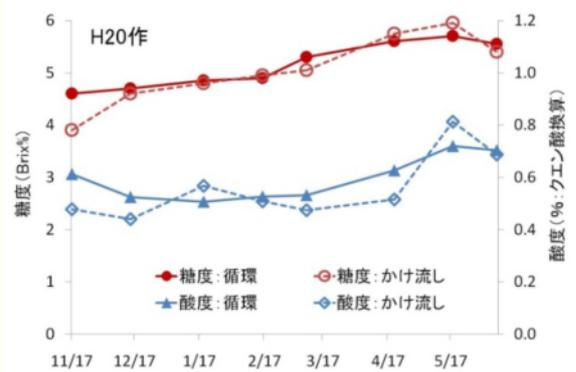
培養液循環栽培のシステム概略図

除菌フィルターなどの除菌装置を必ず用いることが必要です

月旬	7月						8月			9月			10月	11月	12月
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	上	中	下	上	中	下	月	月	月
循環	→ 改良処方(B処方)						← 改良処方(A処方)			← 改良処方(A処方)					
かけ流し	→						←			←					

改良処方の使用時期

収量性(抑制長段作型)



果実品質

(研究成果)

- 改良処方は、A処方とB処方の2種類の培養液処方を生育ステージに合わせて用いる新しい処方で、A処方は定植から第3果房開花時期まで、B処方は第3果房開花時期以降に使用します。
- 独立ポット耕の培養液循環栽培において、改良処方を使用することにより、かけ流し栽培と同程度の収量と果実品質が得ることができます。
- 肥料代は、かけ流し栽培に比べ約30%削減できます。